

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 専門学校 麻生リハビリテーション 大学校		設置認可年月日 平成13年3月30日	校長名 安藤 廣美		所在地 〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1 (電話) 092-436-6606																		
設置者名 学校法人麻生塾		設立認可年月日 昭和26年3月12日	代表者名 麻生 健		所在地 〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																	
医療	医療専門課程	作業療法学科 (夜間部)			平成25年文部科学省 告示第3号	—																	
学科の目的	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科は、教育基本法の本質に則り、学校教育法並びに理学療法士及び作業療法士法に従い、高齢化社会、医療技術の高度化、リハビリテーションの専門化に対する人材確保の一翼を担い、医療及び保健福祉活動の充実発展に貢献するために作業療法士を養成する事を目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	4年 夜間							2900時間	1020時間	870時間	1010時間	0時間	0時間										
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
160人		71人	0人	6人	26人	32人																	
学期制度	■前期:04月01日～08月31日 ■後期:09月01日～03月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験、実習評価及び学習状況の総合評価とし、60点以上を合格点とする																		
長期休み	■夏季:08月11日～08月15日 ■秋季:08月20日～09月02日 ■冬季:12月25日～01月04日 ■春季:03月04日～04月03日			卒業・進級条件	(進級)規定の出席率(欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内)且つ学科試験・実習評価が60点以上をもって合格、単位履修、ならびに各学年の教育に基づいたものとする (卒業)全単履修並びに欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内とする																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任および主任による個人面談随時実施し、必要に応じて三者面談や個別支援体制を実施している。			課外活動	■課外活動の種類 実習病院でのボランティア 地域でのボランティア その他ボランティア ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 医療機関・施設 ■就職指導内容 就職事前指導をスタートして、履歴書の添削および面接指導等を個別に随時行っている。 ■卒業生数 19人 ■就職希望者数 19人 ■就職者数 16人 ■就職率 : 84.2% ■卒業者に占める就職者の割合 : 84.2% ■その他 ・国家試験不合格 3人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	作業療法士	②	19人	16人											
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
作業療法士	②	19人	16人																				
中途退学の現状	■中途退学者 5名 平成29年5月1日時点において、在学者75名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者70名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更・学業不足 ■中退防止・中退者支援のための取組 随時担任・主任面接実施。保護者との連携における情報交換 学業支援に対してはセミナー、個別居残り学習、担任による指導を行う。			■中退率 6.7%																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金、校納金、寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ・一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 ・全国専門学校リハビリテーション協会																						
当該学科のホームページURL	http://www.asoiuku.ac.jp/arc/subject/otn/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

養成教育は、その時々々の社会環境により影響を受けた医療状況の変化を速やかに反映しなければならない。医療技術の進展や患者様のニーズにより広がりを見せるリハビリテーション領域の教育に企業との連携は不可欠である。

具体的には、カリキュラム作成に際して、養成教育の開始次期における動機付けのための学習や養成教育の要である臨床実習の事前・事後指導の指導に対して臨床の現場である企業からの提言を取り入れ、より現場に即した方法で、医療サービス提供のための教育内容の検討を図れる関係の構築をすすめる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、常に変化する保健・医療・福祉分野の動向を見据えて、養成校の独りよがりな教育とならないように現状に合った教育の水準を担保すべく中核となる組織である。

ここでは多角的な視野からの検討評価をもとに、今後のリハビリテーションを担う人材の育成のあり方を追求することを目的とし、教務会議の一環として年2回開催される。

またこの委員会の検討をもとに、さらに下部組織としてのカリキュラム会議において、より柔軟な実践能力向上に向けたカリキュラム改善に反映されるものとする。

特に各科目の習熟の集大成である「臨床実習」につながる授業の内容や「臨床実習」自体の内容や評価項目について検討し改善をおこなう。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
安藤 廣美	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
原嶋 克幸	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長代行	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
田中 裕二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 校長代行補佐	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
河元 岩男	専門学校麻生リハビリテーション大学校 理学療法学科 主任	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
竹中 祐二	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 主任	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
灘吉 享子	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚士科 主任	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
大内田 由美	専門学校麻生リハビリテーション大学校 作業療法学科 副主任	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
星子 隆裕	専門学校麻生リハビリテーション大学校 言語聴覚士科 副主任	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
黒木 洋美	日本リハビリテーション医学会 認定医 (宮崎大学附属病院)	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	②
日高 幸彦	株式会社麻生 飯塚病院	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
山下 智弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション科 医師	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
兵道 哲彦	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	
山崎 哲弘	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
宮本 隆寿	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
秋山 絵吏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 作業療法士	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③
栗田 芳宏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 言語聴覚士	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回 9月と3月に実施

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成29年 9月13日 18:00～20:00

平成29年度 第2回 平成30年 3月28日 17:00～19:00

平成30年度 第1回 平成30年 9月12日 18:00～20:00

平成30年度 第2回 平成31年 3月28日 17:00～19:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

作業療法学科から作業療法協会の臨床実習ガイドラインの説明が行われた。また今後の臨床実習指導者の要件についての研修会の紹介が行われ、臨床実習指導者に研修会受講の促しが行われた。委員からは今後の臨床実習のあり方に向けて診療参加型実習の準備を行うことと、今後も意見交換を行っていくことが求められた。会議を受け委員からの意見を参考に今後の臨床実習のありかたを検討中である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による実習は実習指導者の下でリハビリテーションおよび作業療法の実践を学ぶとともに、職業人・社会人としての態度を学ぶことであり、さらには、臨床実習指導者の指導の下、作業療法士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習することである。

本校の臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・作業療法計画立案・作業療法実施および記録報告等の一連の作業療法を実践する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

作業療法学科では教育課程編成委員会において、協力病院から臨床実習方針についての意見を伺い、今年度の内容について十分議論し、実習方針を決定している。

各実習指導者と担当教員による実習生への包括的な指導を行なうため、実習開始前に実習先医療機関の実習担当者との会議を行い、学校の方針や実習施設での特徴を踏まえた実習指導についての情報交換を行っている。

さらに実習前には連携している実習施設より指導者を招聘し実習の在り方や内容について講演をいただき、またOSCEでは臨床実習施設の作業療法の先生方から実技指導を受けている。

実習期間中は担当教員が随時電話連絡を行い、期間の中間時に実習施設の訪問し、その後相互で実習進捗を確認し、その指導状況を実習生にフィードバックしていく。実習後は実習担当者会議を行い、結果報告と反省会を行い、表出した課題を次年度への計画に活かしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ・Ⅱ	臨床の場で、患者の評価、作業療法プログラムの作成を学び、学校で修得した理論と技術を応用し、問題解決を図る基本を学ぶことをはじめとして、病院等の組織をはじめリハビリテーション科(部)、作業療法士部門の運営、管理について学び、リハビリテーションチームの一員として行動すると同時に専門職としての作業療法士の資質を養う。	株式会社麻生 飯塚病院などの病院施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修については、教職員に対して、現在の職務又は今後就くことが予想される職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。

「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

併せて作業療法士協会等にて専門分野の研修も同様に教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、定期的を受講させる。この研修はその内容を他教員へ報告することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「臨床研修」(連携企業等:各医療機関)

目的:臨床から離れ、永く養成教育に携わる際の臨床との隔離を防ぎ、常に最新の知識と技術を持って養成教育に当たることを目的とする。

内容:各医療機関において毎週1回、医療機関の臨床現場のセラピストとともに臨床研修を行う。

対象:全教員

研修名:「人間作業モデル講習会」(連携企業等:人間作業モデル研究所)

日程:平成29年6月3日

内容:人間作業モデルを用いた作業療法の実践を学ぶ。

対象:1名

研修名:「認定作業療法士取得研修(共通研修)管理運営①」(連携企業等:日本作業療法士協会)

日程:平成29年6月24日

内容:認定作業療法士の資格修得のための基礎研修で作業療法における管理運営について学ぶ。

対象:1名

研修名:「日本作業療法学会参加」(連携企業等:日本作業療法学会)

日程:平成29年9月21日～9月22日

内容:専攻分野の全国学会であり、最新の知見を学ぶ。学会発表あり。

対象:1名

研修名:「精神障害分野 認知障害リハビリテーションと作業療法」(連携企業等:福岡県作業療法協会)

日程:平成29年9月16日

内容:精神作業療法分野における認知リハビリテーションの作業療法士のかかわりについてを学ぶ。

対象:1名

研修名:「どうなる報酬改定・どうする地域包括ケア」(連携企業等:九州フォーラム2018)

日程:平成30年2月3日

内容:地域包括ケアにおけるリハビリテーション職種のかかわりについて学ぶ。

対象:1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「第30回教育研修大会・教員研修会」(連携企業等:日本リハビリテーション学校協会)

日程:平成29年8月30日～8月31日

内容:リハビリテーション学校協会の全国学会であり、各校の指導力の発表・研修会が行われた。

対象:1名

研修名:「教育現場におけるICT利活用について ～導入事例を交えて～」(連携企業等:全国リハビリテーション学校協会)

日程:平成29年10月21日

内容:今後のICT教育へ向け「Ipadを活用した授業の試み」の講座

対象:2名

研修名:「カウンセリングⅡ」(連携企業等:日本交流分析協会)
日程:平成29年5月24日
内容:ロールプレイングによるケーススタディで、個別面談の仕方を学ぶ。
対象:3名

研修名:「メンタルヘルス」(連携企業等:日本予防医学協会)
日程:平成29年10月29日
内容:メンタルヘルスの現状、ストレスの要因とストレス反応、ストレスへの対処、相談機関。
対象:4名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「第52回日本作業療法学会」(連携企業等:日本作業療法士会)
日程:平成30年月9月7日～9月9日
目的:作業療法士の全国大会であり最新の知見を学ぶ。
内容:テーマ『根拠に基づいた作業療法の展開』
対象:教員

研修名:「認定作業療法士取得研修(共通研修)研究法」(連携企業等:日本作業療法士協会)
日程:平成30年月7月14日～7月15日
目的:認定作業療法士修得のための研修会
内容:認定作業療法士の資格修得のための基礎研修で作業療法における研究法について学ぶ。
対象:教員

研修名:「第28回日本作業行動学会学術集会」(連携企業等:日本作業行動学会)
日程:平成30年月7月14日～7月15日
目的:行動療法における作業療法のかかわりについて学ぶ。学会発表有り。
内容:テーマ『再考;理論としてのセラピスト自己活用とは』
対象:教員

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「カウンセリングⅡ」(連携企業等:日本交流分析協会)
日程:平成30年4月25日 16:00～17:30
目的:体験実習をとおして、傾聴の意義と技法を習得する。(新任教員対象)
内容:カウンセリングにおける傾聴の意義と技法。傾聴の技法、体験実習、個別面談の心得。
対象:教員

研修名:「インストラクショナルデザインⅡ」(連携企業等:一般社団法人全国専門学校教育研究会)
日程:平成30年8月29日 9:00～17:30
目的:育成人材像に基づいた体系的カリキュラムの構築を習得する。
内容:3ポリシーについて、学科目標・教科目標の整理、学科カリキュラムの見直し・改善。
対象:教員

研修名:「コーチング実践」(連携企業等:組織デザイン・ラボ)
日程:平成30年8月30日 13:00～17:30 or 9月5日 13:00～17:30
目的:学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。
内容:学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。
対象:教員

研修名:「第23回日本作業療法教育学会学術集会」(連携企業等:日本作業療法教育研究会)
日程:平成29年10月13日～14日
目的:専攻分野の教育系研究会で各校の研究発表が行われ最新の知見を学ぶ。
内容:テーマ『養成教育・臨床教育の方法論考究』
対象:教員

研修名:「第31回教育研究大会・教員研修会」(連携企業等:全国リハビリテーション学校協会)
日程:平成30年8月24日～8月25日
目的:リハビリテーション学校協会の教育大会であり、最新の知見を学ぶ。
内容:テーマ「社会の変化とリハビリテーション教育の接点を考える」
対象:教員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価活動を実施しマネジメントサイクルに乗せる為の年間計画の作成やコンプライアンス状況、自己点検・評価の妥当性を評価する現況調査によるエビデンスの確認については高い評価をいただいた。特に「学生の受け入れ募集」については他校との比較の上、誤解のない数値や国家試験の結果報告に対する高い信頼性が評価された。今後も継続していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
日高 幸彦	言語聴覚学科保護者	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	PTA
西村 天利	平成18年度 理学療法学科卒業生 (株式会社麻生 飯塚病院)	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	卒業生
松村 秀豊	福岡市東光区	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	地域住民
黒木 洋美	日本リハビリテーション医学会 認定医 (宮崎大学附属病院)	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	有識者
井本 俊之	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 技師長	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
兵道 哲彦	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 副技師長	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	企業
秋山 絵史	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 作業療法士	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	企業
栗田 芳宏	株式会社麻生 飯塚病院 リハビリテーション部 言語聴覚士	H30/4/1～H31/3/31(任期1年)	企業
永田 俊一	福岡県立武蔵台高等学校 主幹教諭	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	高等学校

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>

公表時期:平成29年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史・教育理念・ASOの考え方・10の強み
(2) 各学科等の教育	学科コース一覧・学びの特色・国家資格取得実績・カリキュラム・入学案内
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート・GCB教育・企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間行事・学園祭
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート・臨床心理士による学生相談室・ハラスメント相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート・麻生特待制度・支援制度・その他の制度
(8) 学校の財務	貸借対照表・収支計算書・監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/arc/>

授業科目等の概要

(医療専門課程作業療法学科夜間部) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学の基礎知識を習得する	1前	30	2	○			○			○	
○			生命倫理学	脳死・臓器移植や安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶や生殖補助医療など、医療における倫理上の問題を引き起こす様々な事例において、どのような議論が行われているかを検討し、自己決定、自由、幸福、人権といった倫理学上の基本的な概念やそれに基づく様々な考え方を理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			情報処理	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を習得し、文書作成、表計算・グラフ作成・データ分析、スライド作成を効率的に行うことができる。レポート、サマリー、発表会資料の作成時に活用することができる。	1前	30	2	○			○			○	
○			統計学	記述統計の概要を中心に、統計学の基礎理論について講述する。また、適宜演習を行うことで、実際にデータを処理し、データの性質を説明する能力を身に着ける。	1後	30	2	○			○			○	
○			医学英語	英語の医学論文に慣れ、読解力を身につける。同時に、生体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚えることを目標とする。	1前	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーション学	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する力を身につける。	1後	30	2	○			○			○	
○			接遇講座	医療従事者としての接遇の心構えを学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖学	人体の構造についての解剖学的知識を習得する。	1前	60	4	○			○			○	
○			解剖学演習	人体の構造についての解剖学的知識を習得する。	1後	60	2		○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			生理学	人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。	1前	60	4	○			○			○		
○			生理学演習	実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。	1後	60	2		○		○				○	
○			運動学	運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。	1前	60	4	○			○			○		
○			運動学演習	・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようにする。(変形、異常歩行)	1後	60	2		○		○			○		
○			人間発達学	作業療法を実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあって生じる発達の多様性を学習する。	1後	30	2	○	△		○			○		
○			病理学	病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝的、構造学的、細胞学的、免疫学的、主要額的に理解できるようになることを最終目標とする。	1後	30	2	○			○				○	
○			一般臨床医学	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の原因や概念や基本的な診断・治療について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める。	1前	30	2	○			○				○	
○			整形外科 I	整形外科の基礎知識、治療法、疾患について理解する。 整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			整形外科 II	整形外科の基礎知識、治療法、疾患について理解する。 整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解する。	2前	30	2	○			○				○	
○			内科学 I	作業療法実施において不可欠な、内科学の知識の習得する。	1後	30	2	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			内科学Ⅱ	作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。	2前	30	2	○			○			○		
○			神経内科学Ⅰ	神経内科の基礎知識の習得	1後	30	2	○			○				○	
○			神経内科学Ⅱ	疾患各論の理解	2前	30	2	○			○				○	
○			小児科学	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。	2前	30	2	○			○				○	
○			臨床心理学	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。	1後	30	2	○			○				○	
○			精神医学Ⅰ	①精神機能や精神疾患についての理解 ②精神疾患の症状や治療・福祉などについて理解する	1後	30	2	○			○				○	
○			精神医学Ⅱ	精神医学について、作業療法士として必要な知識の習得をおこなう。	2前	30	2	○			○				○	
○			老年医学	老年学に関する基本的な医学知識（病態、診断、治療、リハビリ）の習得を目指す。	2前	30	2	○			○				○	
○			リハビリテーション概論	医療についての考え方を知り、医療全般のしくみ、およびリハビリテーションについて学ぶ。	1前	30	2	○			○			○		
○			保健医療福祉制度論	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。	2前	30	2	○			○				○	
○			作業療法理論	・様々な体験を通して「作業」について理解する。 ・作業療法の基本的実践理論について理解する。	1前	30	2	○	△		○	△		○		
○			基礎作業学実習Ⅰ	①作業療法で用いる様々な作業の基本的な知識と技術を習得する。 ②各作業を遂行するうえで必要な身体的および心理的機能を理解する。 ③各作業を遂行するうえでの周囲の人的および物理的環境との関係を理解する。 ④グループ学習を通して、自分自身についての理解を深める。	1前	60	2			○	○			○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			基礎作業学実習Ⅱ	①作業療法における作業の必要性と意義について理解する。 ②作業分析の定義、目的、種類について理解する。 ③作業分析を実際に体験する。 ④基本的な指導法について理解する。 ⑤作業指導を実際に体験する。 ⑥作業の治療的な適用のしかたを理解する。	2前	30	1			○	○		○			
○			作業療法概論	作業療法を概観し、その理念、定義、歴史、具体的実践を学び、医療福祉の中での作業療法の位置付けを知る。	1前	30	2	○		△	○	△	○			
○			作業療法評価学Ⅰ	①作業療法プロセスにおける評価とは何かを理解する。 ②作業療法では、対象者のどのような情報を収集するのかを理解する。 ③作業療法特有の評価を演習することで、作業療法の視点を身につける。 ④評価によって得た情報を統合して考える事ができる。	1後	30	2	△	○	△	○			○		
○			作業療法評価学Ⅱ	①リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 ②評価法の種類と方法を知る。 ③評価結果の意味するものを学ぶ。	2前	60	4	△	○	△	○			○		
○			作業療法評価学演習	①リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。 ②評価法の種類と方法を知る。 ③評価結果の意味するものを学ぶ。 ④収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける。	2後	60	2	△	○	△	○			○		
○			身体障害作業療法学	①身体障害の概念を理解する。 ②身体障害に対する作業療法の基本的考え・役割・流れを理解する。 ③作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。 ④様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的な介入方法を理解する。	2前	60	4	△	○	△	○			○		
○			身体障害作業療法学演習	①身体障害の概念を理解する。 ②身体障害に対する作業療法の基本的考え・役割・流れを理解する。 ③作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。 ④様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的な介入方法を理解する。	2後	60	2	△	○	△	○			○		
○			発達障害作業療法学	発達障害の作業療法を実施するうえで必要な、知識基盤、理論的基盤、技法を理解する。	2前	60	4	△	○		○	△	○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			発達障害作業療法学演習	発達障害の作業療法を実施するうえで必要な、知識基盤、理論的基盤、技法を理解する。	2後	30	1	△	○	△	○		○		
○			精神障害作業療法学Ⅰ	①精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を知る。 ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する。 ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する。 ④精神科作業療法の構造・要素を理解する。 ⑤精神障害特性・モデルと回復過程を理解する。	2前	60	4	△	○		○	△	○		
○			精神障害作業療法学Ⅱ	①精神障害作業療法の概略と作業療法の実践理論を理解する。 ②精神障害作業療法における評価とその視点を理解する。 ③精神障害作業療法のプロセスと構造、実践を理解する。 ④生活を支える視点と作業療法を理解する。 ⑤疾患別の作業療法実践について理解する。	2後	60	4	△	○		○		○		
○			老年期障害作業療法学	①高齢者・老年期の特性について理解する。 ②老年期障害のリハビリテーション、作業療法について理解する。 ③認知症とその作業療法について理解する。	2後	30	2	○			○		○		
○			高次脳機能障害作業療法学	脳疾患や脳外傷などに起因する、高次脳機能障害について基礎知識を学び、それを基に各症状に対しての検査、作業療法アプローチ技法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			義肢学	義肢（義手、義足）についての適応、構造、その効果に関する知識のみならず、その作成に関わる制度やその調整方法を含めて、臨床での事例も紹介しながら学習する。	2前	30	2	△	○		○		○		
○			装具学	①装具の目的と給付体系、装具両方における作業療法士の役割を理解する。 ②各種装具の装着目的及び目的達成のために配慮された形態的特徴を知る。 ③装具のチェックアウトの要点を学ぶ。 ④疾患に対する装具の役割を学ぶ。 ⑤装具製作実習を通し、基本技術を習得し、装具の構造に対する理解を深める。	2後	30	2	△	○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ADL支援学	①福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。 ②福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。 ③福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。 ④疾患別における移動動作の指導および援助を実践することができる。 ⑤事例を通して作業療法プログラムを立案することができる。	2後	60	2	△	○	△	○		○		
○			ADL	①人の生活の中における日常生活活動の位置づけを理解する。 ②日常生活活動を遂行するための心身機能や影響因子について理解する。 ③身体障害領域で用いるADL評価について理解する。 ④疾患別の移動補助具について理解を深め、適切に使用することができる。 ⑤疾患別におけるセルフケア動作への介入の思考過程を知ることができる。	2前	30	2		○		○		○		
○			地域作業療法学	①地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、地域作業療法の実際を知る。 (身障) ②発達障害領域での地域作業療法の歴史を振り返り、知識基盤および実践的方法論を整理し、クライアント(こどもと家族)中心、プロセス中心の作業療法を理解する。 (発達) ③精神障害領域での地域支援における作業療法の役割を理解し、その実際を知る (精神)	2後	60	4	△	○	△	○		○		
○			職業関連活動	①職業の意義を理解する。 ②障害者の就労問題は社会全体の問題であることを理解する。 ③障害者雇用の現状を知る。 ④職業リハビリテーションの目的および関連職種との役割、法的支援について学ぶ。 ⑤職業リハビリテーションにおけるOTの役割および援助過程について学ぶ。 ⑥障害者が働いている現場訪問を通して、OTが関わられることを考える。	2後	30	2	○			○	△		○	
○			評価実習	担当症例について評価計画を立てる。 評価を実施する。評価結果から全体像をまとめる。	2後	120	2			○		○	△	○	
○			臨床実習Ⅰ	将来像を予測し、作業療法の対象となる生活機能と障害について焦点化する。 リハビリテーションチームのリハビリテーションゴールを理解し、作業療法部門としての作業療法計画(長期・短期目標)を設定する。	3前	400	8			○		○	△	○	○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床実習Ⅱ	短期目標達成のための作業療法プログラムを計画する。計画にそって作業療法を実施する。 対象者の状況変化に対応し、適宜再評価を行い、作業療法プログラムを修正する。 実習施設の作業療法部門の役割と特色を理解する。作業療法士としての管理運営業務を学ぶ。社会人・職業人としての態度を修得する。	3後	400	8			○		○	△	○	○
合計				53科目				2900単位時間 (136単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各授業科目の総授業回数の3分の2以上出席し、前条第1項の規定においてC評価以上取得した者に対して履修を認定する。卒業は、最終学年次に履修すべき科目（実習を含む）を全て履修している者で学校長が認めた者とする。	1学年の学期区分	Ⅱ期
	1学期の授業期間	15週